夕刊 磐城新聞
二月二十六日發行
（日曜祭日翌日休刊）

輝かしき童心 七

『オーバル・ホワイトレイの日記』その他

津川公治

この愛は人間と動物のけじめなく、家畜にまで及んで、日頃彼女の寵兒とし無二の遊び友達となつてゐた豚や、犬や、二十日鼠や栗鼠や、鶏や、樫や樅の木などに、自ら古來の天才偉人の名前をつけて呼び、彼等と常住嬉戯してゐたのであるが、これは古今に全く類例のないヒューマン・ドキュメントとして永く記憶さるべきものであらうと思ふ

最後に私は、ピーター・ポウル・ルーベンスと呼んで常にどこへでも連れてあるいてゐた彼女の最も親しかつた豚が屠殺された日の日記を拔いて終ることにする

『私は全身が妙な氣持になつてゐます。きのふは屠殺の日でした。豚の中ではピーター・ポウル・ルーベンス（豚）が殺されてしまつたのです。母さんは朝の仕事が濟むと、私に終日森の方へ行つてらつしやいとお命じになりました。ブレイヴ・ホレイシアス（犬の名）とクラジアムのラース・ポーモナ（鳥の名）は私と一緒にいきました。ポーセナはときどき私の肩に脚をのせました。それから今度はホレイシアスの背中に跨らうといたしました。フエリックス・メンデル スゾーン（二十日鼠の名）は私のエプロンのポケットの中にはいり、エリザベス・バレット・ブラウニング（牝牛の名）は後について來ました。いくばくもなく私達はけたゝましい豚の叫き聲をきゝました。食べものが欲しいときの鳴聲とはまるで違つた悲鳴でした。萬事休す、私は全身に惡寒を催しました。母さんが私を毆りもしないで森の方へ行つておいでと仰しやつたわけがその時はじめてわかつたのです。私は可愛いゝピーター・ポウル・ルーベンスを助けてやらねばならないと思つて大急ぎで驅けていきましたけれどもすでに彼は死んでゐたのです。――彼は頭を私の膝にのせたまゝ死んでゆきました。私自身も死んだやうな氣持でそこに坐つてをりました。しまひには懷しいルーベンスの咽喉から流れだした血で私の膝はすつかり朱にそまつてしまひました。私は衣裳を着かへ、血にそまつたのを雨樋の中にほうり込んでから、ピーター・ポウル・ルーベンスの靈魂をさがしに森へ行きました

冬夜雜感

踈雲　小野務平

寒燈一穗易傷魂
繙史撥然垂涙痕
維義維忠與型在
其人今日幾人存

小曲　想ひ

中野きみ子

空高く晴れた日

さかづら

酒野貫郎

○酒飲ますと夕餉を早く膳につき妻がさしたる盃を乾したり
○酒飲ますすべし知らぬ妻と向ひてひとり汲む盃のなんぞにがけれ
○にがき盃と强ひて飮む酒はこころよく醉はぬなりけり顏あからめて
○こころよく飮まば醉ふべき一杯（ひとつき）の酒よ汲みつつひとりわが乾す
○ほろ醉ひを感じながらに妻と居り酒飲むはさびしたはむれもなくて

萬葉の歌と人 八

ケイワイ生

彼には强い理智的な反省的な態度のためにその歌に觀念的な歌もあるが、多くは人生の奥底から發した沈痛な響がある。赤人を自然詩人とすれば、彼は人生詩人とも謂ふべきであらう

貧窮問答一首幷短歌

風交り　雨降る夜の　雨交り　雪降る夜は　術もなく　寒くしあれば　堅鹽を　取りつつじろひ　糟湯酒　打ち啜ろひて　咳ふかひ　鼻びしびしに　しかとあらぬ、鬚搔き撫でて　我を置きて　人はあらじと　誇ろへど　寒くしあれば　麻衾　引きかゝぶり、布肩衣、ありのとごと、着襲へども　寒き夜すらを　我よりも　貧しき人の、父母は、飢ゑ寒からむ、妻子どもは乞ひて泣くらむ。此の時は、如何に爲つゝか、汝が世は渡る。天地は廣しといへど、我が爲は、狹くやなりぬる。日月は明しといへど、我が爲めは照りや給はぬ。人皆か、我のみを然る。わくらばに、人とは生るを、人並に、我も生れるを、綿も無き、布肩衣の、海松の如、わゝけ下れる、かゝふのみ、肩に打ち懸け、伏廬の、曲廬の内に、ひた地に、藁解き敷きて、父母は、枕の方に、妻子どもは、足の方に、圍み居て、憂へさまよひ、竈には、煙吹き立てず、甑には、蜘蛛の巣懸けて、飯炊ぐ、事も忘れて、鵺鳥の、咽呼び居るに、いとのきて、短き物を、端截ると　言へる如く、笞杖を取る、里長が聲は、寢屋どまで、來立ち呼ばひぬ。斯くばかり、術なきものか、世の中の道

貴方は來られた
遊びにと――
エ、
遊びに來るのはいゝ
けれど
私の心まで
かきみだし／＼して
かへらないで

2月27日

△仁和寺濟信牛車便乘を始む（寬仁四）△島原の亂‼原城總攻擊開始（寬永一五）△大日本史の編纂を始む（明曆三）△理研の尾形博士發明の赤外線寫眞乾板實驗成功を發表（昭和一〇）

講談　黃金魔及 (85)

高桑義生作　樋口悅也畫

同志（十）

一方、權六、藤兵衛の身の上は？

かれらの船は上手にむかつてスハ／＼と進んで行つた。寬之助はけんめいに櫓を押してゐる

『かたじけない。この御恩は權六死んでも忘却つかまつらぬ』

誇張ではない。實にゆくりなくも救ひの神を得たのだつた。權六は涙をながして錦藏に謝したのである

藤兵衛は意識を回復した起きあがらうとしたが、身動きも出來ないので權六の膝に抱かれて泣いてゐる。子供のやうに泣いてゐる。そして繰りかへし繰りかへし

『殘念だ、殘念だ』

とつぶやくのであつた

おなじ長崎にゐて、彼等はもちろん相識の間だつた

錦藏が有明丸に用事が出來たので、寬之助をつれて船に來て、用を濟まして戻つて來ると、折りからの騷ぎである。知らぬ者ならともかくも、知つてゐて、そのまゝ見過すことは出來ない自信はあるし、それに救つて置いて損のない人物である。なにかの時に役に立つ。――彼はちやんと打算してかゝつた

『なせまたあのやうな者どもと……？』

一應はきかねばならぬ事である。で、錦藏がさういふと、權六

『實は役目に關係のある事ゆゑ、深く申しあげられぬが……』

『なるほど』

『われ／＼は長崎より或人間をつけて參つた。その者は容易ならぬ徒黨をつくつてゐる。で、かれらは仲間の秘密、今後の動靜を知られてはならぬと思ひ、進んで先手を打ち、同類をかたらつて、逆に襲擊手段に出たのだ。けつして無意味の爭ひではござらぬ』

『なるほど』

『しかし、われ／＼の不覺でもあつた。多勢の、しかも統制ある暴力のもとに誰が見ても喧嘩沙汰としか思はれぬ、いしくもたくんだ敵の術中に陷り、すでに命をうしなふところであつた。いや、まさに死ぬべき危急であつた。神のたすけ運命の加護かたじけなく思ふばかり……』

『いや』

『されば、左様な事情のある事ゆゑ、當所の役人に對しては、目下のところ何も申したくない。が、あへば或點までは仔細を語らねばならず、よう／＼いとぐちをつけたばかりに、迂濶に手入れでもされては、大事を逸するおそれがある。破綻を生じるおそれがある。しかし實大、恐るべき敵なのだ』

で、權六はみづから役人を忌避したのである。手負ひの介抱には不便だが、疵護をうけるには都合はいゝが、どの道危險に身をさらしてゐる自分たち、つねに劍の刄をわたる覺悟があつたのだ

『御承知かも知れぬが、先ごろ長崎に破牢人があつた！』

と權六がいつた。錦藏はハッとした

『實を申せば、その捕縛役目をおびて、長崎を出たのでござる。われわれが尾行いたす人間は、その破牢人ではないが、もちろんそれと關係がある。それは役目上の秘密でござるが、御芳志に對し申しあげる次第……』

よもやその當人が目の前にゐるとは、夢にも思はぬ

人生は皮肉である

回春園にて

鈴木欣々子

千鳥なき夜はしんしんと窓に更けぬ
千鳥啼き窓の灯影は地に凍てぬ
海おとになれ千鳥啼く夜を病めり
△
千鳥なく夜をみとりつゝ書をよめる
看護婦は千鳥鳴くよと書をとぢし
ヨハネ傳とぢ千鳥なく夜をみとる
△
風やみて千鳥鳴く夜を深めける
千鳥なきかゝる夜こそは友逝きし
千鳥なく夜更けの海のうた悲し
△
淋しさは千鳥なく夜に血を吐きしとき
千鳥なく夜の果てしときに血を吐きぬ
血を吐きつ千鳥の冬を送りけり

夜間診療
胃腸性病
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）
（見習看護婦募集）

廣告
前田醫院

石城酒造組合主催　唎酒會
（優等入選）
白馬の雪
辰の口本店　平窪村（電話平二八五番）
販賣店　平町三丁目（電五四番）

耳鼻咽喉科
高柳醫院　平驛前（電三三六）
醫學博士　高柳博明
（入院應需　自炊ノ便アリ）（看護婦募集）

藥品　百貨
西村屋藥舖
福島縣平町二丁目
藥劑士　鈴木堅助
電話三番
振替　東京六二九九　仙臺一二〇一

耳鼻咽喉科專門
醫學士　鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前

齒科口腔外科
日本齒科醫學士　鈴木喜政
『入院のお需めに應ず』（看護婦及び見習看護婦募集）
鈴木醫院
內郷村高坂磐炭病院前

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平町公園下
電話六七四

年始の送り物に
鰹節と鹽鮭
魚問屋
平町四丁目　電二一三

生花教授
池ノ坊
生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

醫學士　吉田久雄
吉田眼科醫院
平町紺屋町　電話六八番

高久病院
平町田町（電話五三一番）
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽前
藥劑士　佐竹菊雄
內科　小兒科　外科　花柳病科　耳鼻咽喉科　レントゲン科

友部株式店
平町三丁目
電話一七七番

內臟外科一般
外科花柳病科
（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

電報のスピード・アップ
電話加入者に內容速報
平局でも來月一日から實施

從來電報は徒歩か自轉車で配達されてゐたが、仙臺遞信局では電報のスピード・アップをはかるために特に電話加入者に對しては希望に應じて電報の內容を一先づ電話で速報することになり、三月一日から各局外二等、特定三等局十三局にお の取扱ひを開始する事となつたので平局でも目下電話加入者の電報發着數等を調査中であるが取り敢えず市外加入者のみに限られるらしいと

なほ仙遞局としては今後加入者全部に對してこの趣旨を徹底せしむべく追ひ〜〜一、二等局全部においても取扱ひを開始する豫定である

備荒田設置奬勵
明廿七日平町で打合せ

一昨年來の打續く凶作に郡內各町村では縣の方針に基き恩賜金による郷倉の設置並にこれに附隨した備荒田地の設置に努めて來たがなほ不充分な處もあるので明二十七日平町で開かれる町村產業技術員並に勸業主任協議會に際しても特に備荒田地の創設を打合せる事となつた

郡內に於て昨年末迄に新設された備荒田は二町村九反一畝、四郷倉組合、百五十七名に上つてゐる

教育費が六割強
全國稀有の內郷村
來廿九日頃豫算村會

全國でも珍らしい大村たる內郷村の十一度新豫算は過般來着々編成を急いでゐたが愈々纏つたので來る二十九日頃村會を招集附議する事となつた

豫算總額は大体十二、三萬圓程度に上るものと見られて居るが同村は何せ學校が五つもあるのでこれが教育費も約六割強を占める八萬圓に及んで居るので有名な村である

中の作港 竣功檢查

既報—江名町中の作築港工事中十年度竣功の分は農林省飯島技手、渡邊屬、若牛雁の一行が昨二十五日來郡檢查、今二十六日平土木監督所で種々打合せた、尚一行は四倉、相馬郡松川浦兩港の竣功檢查を行ひ二十九日頃歸廳する筈

植田校卒業生見學

植田小學校高等科卒業生七十名は二十七日午前五時發鈴木校長外五訓導引率東京市內見學旅行

桑樹剪定 實地研究
來月十四日平支所で

縣蠶糸課では來月十四日蠶業取締平支所で郡內の桑樹剪定實地研究會を開催するが參集合格者は蠶業取締所支所員、町村駐在技手及び養蠶實行組合指導員で當業者を除く講師は赤澤技師、松本技手である

清酒吟醸 貯藏指導

酒造年度の實地指導と清酒吟醸、貯藏の指導のため會津工業試驗場の竹內技師は左記日割で來郡する

二十五日—平町 二十六日—高久村、平窪村 二十七日—內郷村

平第一校學藝會
新味を盛つたプロ決る

平第一校では來る二十九日學藝會を左記の如く二部に分ち開催、併せて書方、綴方、圖畫等による成績品展覽會を開く

〔第一部〕（尋一—尋四）
齊唱『雪合戰』四ノ一 兒童劇『磁石』三ノ三 齊唱『凧』一ノ一 お話『狗犬の眼』四ノ二 獨唱『犬』一ノ一 席書四合 齊唱『梅に鶯』二ノ一 兒童劇『遠足前夜の夢』四ノ四 齊唱『鵯越』三ノ一 唱遊『ブリキの兵隊』一合 齊唱『橘中佐』四ノ三 兒童劇『税』四ノ一 齊唱『雪だるま』一ノ二 お話『鷹山公の孝行』四ノ一 獨唱『かけつこ』二ノ一 席書三ノ一 兒童劇『加藤清正』四ノ三 齊唱『雪』二ノ二 學校劇『しゝとねずみ』一合 齊唱『山雀』四ノ四 唱遊『お祭、鈴の兵隊』二合 齊唱『雁がわたる』三ノ三 兒童劇『白兎』二合 齊唱『うさぎ』一ノ三 兒童劇『八岐の大蛇』三ノ三 齊唱『夢』四ノ二 兒童劇『學校どつこ』一合 齊唱『汽車のたび』二ノ三 齊唱『冬の夜』三ノ二

〔第二部〕（尋五—高二）
齊唱『いてふ』五ノ一 貼紙繪『風景』高二ノ二 綴方朗讀五ノ二 齊唱『野分』高二ノ二 兒童劇『木こりと猿』六ノ三 齊唱『雪』六ノ一 席書高一ノ一 齊讀『選擧の日』五ノ一 齊唱『紫式部』高一ノ二 兒童劇『水兵の母』五ノ三 齊唱『スキーの歌』六ノ二 お話『道德と法律』高二ノ一 獨唱『冬景色』五ノ一 齊唱『吾等の日本』五ノ二 朗讀『征衣上途』高一ノ二 齊唱『キャンプ』六ノ三 板書六ノ一 齊唱『海』五ノ三 兒童劇『全用ぼつちやん』六ノ二 合唱『御代の榮』高一ノ一 齊唱『山』高二ノ一

第二校
同第二校では來月三日新曆雛節句各學級別に雛段を設け雛祭り學藝會と銘打ち開催する

飯野校
今二十六日午前九時から開き村民多數參會盛會を呈した

若葉會をきく
○△生

義太夫

三

染分手綱。 才造師。之は彈きがたり、さすがはお師匠さんだけあつて感じが別だ。何となく垢拔けしてゐる。樂に語つてゐる。餘裕があるなと言ふ感じだ。音聲も誠に圓滿で、殊に表情などの洗練されてゐるあたり、一家を為す人だなと思つた。沓掛茶屋の段で、三吉、八造乳母、盲人などの人物が登場するのだが、特に乳母や盲人の語り表情には、全くほろりとさせられる。まあ色々感せさせられた點は多々あつたが、一つ難を言へば一寸あま過ぎたとでも言はふか。惜しい事で時間が大部分おそうなつて居た爲か、聽衆が少しだけかけてゐた事は殘念であつた

白浪五人男 は練習不足で公開程のものではなかつた。批評の限りにあらず。誠にまとまらぬ批評を書いて了まつた。特に全くの素人聽手のたわごとでもあるが、妄評は、呉れ〜もお詫び致します。いや、藝事は何によらずよいものだといふ事をシミジミ感じた。そして何等かの意味で、筆者の將來に良きヒントを與へられたかに信じてゐる。此の點謹んで御禮を申し上げます

◇……◇

內妻を住み込ませ三日目に伴れ出す
惡辣な前借踏み送檢

平町新川町島目酒店裏安齋鐵治(三六)は昨年來安達郡二本松町字竹田二六伊勢さよ(三六)と內緣關係を結び三ケ月程同樓の上客職中前借百圓で浪江町某飲食店に住み込ませ僅か三日目に伴れ出し更に一月二十三日湯本町飲食店綠家事伊藤みどり方に三百五十圓に住み込ませ之亦三日目に連れ出した惡辣な前借踏み振りに其筋で目下行方嚴探中であり今二

水產實務講習
來月平町で

縣水產會では漁業組合組織の改正に伴ひ組織設定協議會並に實務講習會を來月十三、十五の兩日平町團体事務所において開くことになつたが、十三日は實務講習十五日は組織設定協議會開催とし農林省より今村理事官及び庄司屬が出席する

石城の政戰を顧る
一部同志?の進退と鈴木派の苦闘

三

候補者詮衡に關する石城政友部會の幹部會は、鈴木部會長の招集により、第六十八議會解散の一週間目、一月廿七日の午後からマルトモホールで開かれた。この會合は府縣大會、郡市區部會(又は之に準ずる會合)は議會休會明け後は開いてならぬ

候補者を選定せんとする幹部が會合の上眞に自由討議の結果候補者を詮衡する行爲は差支なきも特定人を候補者として推薦するこ[illegible]就き他人の承諾を求むる行爲と認めらるゝ時は違反となる

と云ふ岩村司法省刑事局長唐澤內務省警保局長連名の濱田議長宛依命回答に基き最初の部會總會を變更し、幹部會として常任幹事以上を招集したものであつた

〇

以上を範圍とする通知狀百數名中出席者六十何名。平穩且つ公然而して極めて合法的に企てられた催しではあるが、會は最初から解散後の總選擧に在つては前代議士を優先推薦することの慣習と、之と同樣な本部及び支部の方針に則り何等の議論無く鈴木前代議士を常選的に推さんとする中堅派と、變に『今度丈けだから』と選擧民に泣きついた手前、今回の出馬に就て全然プロバビリテーを缺いて居る爲勳四等の勳章をブラ下げた鈴木を新らしい議事堂の開院式に出すまいとしての抱き合ひ心中と云ふ對蹠的の計劃を藏する佐藤前代議士一派との深刻な相剋が底流してゐる事とて、場內は[illegible]會前夙くも所謂山雨臻らんとして風樓に滿つの物々しい空氣が颯と隅々迄磅礴した

〇

會は再選の常道を行かんとす、鈴木派と佐藤前、木村元兩代議士級を盟主とする非常識的叛逆ブロックと睨み合ひの裡に、鈴木部會長の挨拶によつて開かれた——非常時局に處する代議士候補詮衡の重大性に關する說明を加味した部會長の挨拶についで、川崎幹事長から該集りの前記範圍に止めねばならなかつた理由を述べ、代つて縣支部から態々この會合に臨席の黨務委員長物江浩氏が起つた

〇

物江氏の支部に於ける候補詮衡の方針に關する報告は常道に據つて前代議士を推すの鐵則に基き飽迄必勝當選を期すべきである——と云ふ以外に一歩を出でなかつた、さもあるべしと云つた鈴木派の輝かしい面地に對し反對派の氣分は極度に尖鋭化した

◇……◇

銀幕にあこがれ藝妓前借を踏倒す
湯本の千代丸逃走

湯本町三函五一藝妓置屋壽事大平長次方抱藝妓千代丸事新潟縣東蒲原郡津川村生れ長谷川マス(二八)は去る二十三日朝八時半頃髮結ひに行くと稱して外出したまゝ前借を踏み倒して逃走、內郷村大字綴字一の坪に居住する叔父の佐久間某方に主人の用事で來たと立寄り綴發上り列車で高飛びしたものらしいからと二十六日抱主から平署に捜索願

同人は常日頃から女優を志願してゐたが小學校五年中途退學で思ふやうにならず悶々の日を送つてゐたので或は上京したものらしい

全國でも初ての事 竹籔內で賭博開張
小名濱の漁夫に求刑二月

小名濱町竹町一三五漁夫田邊末松(五九)は去る十九日午後同僚齊藤清次郎等と同町寺廻地內竹籔內で十丹賭博を開張したが博奕常習而も惡質なる所から公判に付され今二十六日午前十時から平區で西判事係り氏家檢事關與公判開廷懲役二月を求刑、判決は來る二十八日なほ檢事の調査によれば竹籔內で賭博開張したものは全國でこれが嚆矢であると

天津教に大手入れ

今より十年前邪教として解散を命ぜられた天津教は最近に至つてひそかに信者を集め教の强化を計つてゐる事を探知した植田署では昨二十五日二名、平署でも四名を召喚、參考人として取調べを進めてゐるが昨夜四倉署でも草野村より某々二名を引致嚴重取調べて居る

女子青年團幹部講習會

郡聯合女子青年團では來月五日午前九時より平町平館に幹部講習會を開き各町村役員 同中堅團員十名以上參集 讀賣新聞外報部次長鈴木東民氏の講演を聞く 同評議員會は右講演終了後同館に開き決、豫算に就き協議すると

出鱈目を並べてガソリン千ガロン詐取
橫山商店して遣らる

去月二十日平町三丁目油商橫山彥介方を訪れた自稱水戶市大久保町一、八八三番地油商中郡義次(三三)が自分は平町の某役所に居る誰れそれが親戚であるとか好間にも親類があるとか稱してすつかり相手を信用させガソリン千ガロンを水戶へ送らせ川崎第百銀行水戶支店渡しの小切手額面四百八十圓で支拂つたが、同行とは何等の取引無く全然不渡りと判明、近く取押へらるゝ模樣で書類のみ今二十六日送檢された

中山常陽支店長結婚式

常陽銀行平支店長中山毅雄氏は諸橋久太郎氏夫妻の媒酌により小田炭鑛萩原鑛業所長萩原申八氏長女敏子孃と婚約整ひ去る二十三日縣社子鍬倉神社に於て結婚式を擧げ二十九日午後二時より住吉屋本店に於て披露の宴を催すと

藺市場未償資金整理

縣では縣下の藺市場に對し保證の上資金借入れを行はせてゐたが其の中未償還のものが續出するので監督を嚴重ならしめてゐたところ去る一月二十一日で手形支拂期限となつてゐた植田市場にも同金三千圓を速かにその償還を完了するやう二十五日嚴重注意を發した

五十婆重傷
列車に飛ばさる

植田町驛前北郷ナカ(四九)さんは廿三日午前六時ころ同町八幡神社參拜の歸途常磐線踏切で折柄進行中の列車に跳飛ばされて重傷[illegible]負つ

あはや刄物沙汰
昨夕南町地內で

昨二十五日午後五時頃平町南町料理業金澤屋に登樓した才槌小路香具師大平節治(三八)と同町阿部弘(三五)の兩名が泥醉の上些細な事から口論となり阿部は臺所から庖丁を持ち出してあはや刄物沙汰になる處を急報により馳せつけた平署に檢束

天氣豫報
小名濱測候所觀測

今晩は北西の風曇、明日は北西の風晴後曇

二十七日（小名濱測候所調查）
日出 六、一二 月出前 八、三一
日沒 五、二九 月沒後 一〇、五四
滿潮 前 六、一五 後 七、三五
干潮 前 〇、〇三 後 一、[illegible]

新曆二月二十七日 木曜 舊二月 己卯 赤口 五除 井宿

諸判定處 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠舘

▲一白 目上には逆くとも左右の折合ひは惡しき日▲二黑 氣のみ焦らんより足元に注意して進むべし▲三碧 働きを目上に認めらるゝ日當面一番急ぐな▲四綠 勵けば働く程深みに落入る日なり注意▲五黃 運氣漸く成りし樣で實務の十分ならざる日▲六白 聞き違ひより意外の口舌をひき起すことあり▲七赤 こ息の手段を取らず一意誠を以てすべき日▲八白 山氣は破れを招くの本常業大切に守るべし▲九紫 多少の面だうはありとも概して進んでよろし

社員採用
固定給參拾圓外手當支給
二十才以上五十五才迄
希望者は履歷書持參本人來談
平町鍛冶町十八
日本商事株式會社平支部
債券 公債 社債 現物賣買 擔保貸附

大至急
會員募集
年齡、學歷を問はず堅實なる婦人を望む
平町紺屋町
上原家政婦會
電話二二一番

宮城縣縣社竹駒神社初午大祭典
三月一日（舊二月八日）より七日迄七日間
神輿渡御及古式奴騎馬行列（初日及中日の）二日間
陸前國岩沼町 初午大祭典事務所

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋銅物金物問屋
㊋ 釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九[illegible]九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊋の生命なり

父康五郎儀永々病氣の處療養不相叶二十五日午後零時十分死去致候間此段辱知各位に謹告仕り候
追而葬式の儀は二月二十七日午後一時自宅出棺長橋町性源寺に於て佛式に依り相營み申候

男 阿部康雄
親戚 阿部卯吉 草刈榮峻
友人 關內一助 佐藤芳藏
總代 佐藤紋松 櫻山彌